

# 電波新聞

2018年(平成30年)  
12月20日  
(木曜日)

発行所 電波新聞社  
東京本社  
〒141-8715  
東京都品川区東五反田  
1-11-15  
☎03(3445)6111(大代表)  
大阪本社  
〒541-0045  
大阪市中央区道修町3-2-6  
(ウエムラビル4階)  
☎06(6203)3361(大代表)  
©電波新聞社 2018

## セキュリティイベント増える

### 技術の底上げや人財発掘へ

セキュリティ技術者の育成などを目的にしたセキュリティイベントを開催する企業が増えてきている。サイバー攻撃が巧妙化し、日々、コンピュータシステムが脅威にさらされている半面、攻撃からの防御や対応をするセキュリティ技術者が不足。こうした背景を受け、政府などはセキュリティ人財の発掘や育成のためにセキュリティの競技会の必要性を説いており、業界団体やセキュリティ企業などが競技会を行う事例も増えてきた。参加者も多くなり、今後、さらに拡大するとみられる。



イクシア サイバー コンバットでは様々な業界から参加があり、技術を競った



セキュリティ関連イベントは世界で行われており、CTF(キャプチャー・ザ・フラッグ=旗取り合戦)と呼ぶ競技でハッキングやセキュリティの技術を競うことが多く、海外では93年から毎年開かれていて世界最大のハッキングイベント「DEF CON(デフコン)」が有名だが、国内では、13年度から日本型CTF大会として日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA)が「SECCON(セッコン)」を開催。日本最大のハッカー大会として、昨年は102カ国から累計4347人が参加した。今年は22、23日に東京・秋葉原で行われる。

「SECCON(セッコン)」を開催。日本最大のハッカー大会として、昨年は102カ国から累計4347人が参加した。今年は22、23日に東京・秋葉原で行われる。セキュリティイベントのイベントも増えてきている。17年にネットワークセキュリティイベントのイクシア・コミュニティの事業を統合したキーサイト・テクノロジーは今年9月、サイバー演習イベント「イクシアサイバーコンバット」を日本で初めて開催した。17年からシンガポールやバンコク、香港で開催しており、今年、東京での開催となった。攻撃者と防御者の2人1チーム、全16チームが参加。企業や官公庁、学校などに幅広く募集をかけた大会を行った。ナビーン・バートアジアパシフィック マネジングディレクターは「サイバーセキュリティサービスを提供するところも含め、全てでサイバーセキュリティトレーニングの設備が必要になる」と話す。

トレンドマイクロは15、16日に「トレンドマイクロCTF2018」を開催した。15年から始まり、今年で4回目となる。9月に行った予選には59以上の国と地域から740チームが参加。予選を突破した10チームと招待3チームで技術を競った。国内ベンダーでもセキュリティ人財育成の一環としたイベントを開く動きが出てきている。日立ソリューションズと日立ソリュートンズ・クリエイティブはセキュリティ技術を高める目的で、社内セキュリティコンテストを昨年実施。個人で戦う「セキュリティスキルコンテスト」と団体戦の「ハッキングスキルコンテスト」があり、今年はグループ内外から多数が参加した。ハッキングスキルコンテストは1チーム4人で戦い、今回は日立ソリューションズグループのほか、日立製作所や日立システムズなどからも参加して技術力を競った。富士通は13年度から「富士通セキュリティマイスター認定制度」の運用を始めており、セキュリティ技術者育成に力を入れる。11月にはデータセンター運用でセキュリティ技術を蓄積している富士通エフ・アイ・ピーと共同で「富士通サイバーセキュリティワークショップ2018」を開催。社内セキュリティコンテストも実施し、520人の応募者から40人が参加して技能が披露された。こうしたコンテストは、セキュリティ技術の底上げや人財発掘の観点から今後さらに増えそうだ。

※本記事は、発行元の許可を得て掲載しております。